

札幌市における町内会館の役割とその現状

- 複数・単一町内会による会館運営と利用の違い -

正会員 ○加賀谷 仙一*1
同 真境名 達哉*2
会員外 神崎 雅弥*3

5. 建築計画-2. 施設計画

町内会館、政令指定都市、札幌市、高齢者、複数

1. 研究の背景と目的

これまで町内会館は日常の安全や防犯、福祉、介護等の助け合いや地域交流の場として地域住民にとって最も身近なコミュニティ施設として多くの人に利用されてきた。既往研究¹⁾では、地方都市である室蘭市における町内会館は単一町内会で運営・利用をしており、利用率が低い。また、ヒアリング調査により都市圏である札幌市の町内会館では、複数の町内会で会館を運営・利用している町内会館（以下、複数館）と、単一の町内会で会館を運営・利用している町内会館（以下、単一館）が存在している現状があり、複数館の運営や利用状況について不明な点がある。

よって本研究では、札幌市内の町内会館が複数館、単一館の町内会で運営・利用している現状を見ていくことで現在の町内会館を運営・利用している状況の違いを明白にし、考察していくことを目的とする。

2. 研究の方法

研究の構成および方法を図1に示す。町内会館の概況と複数館、単一館の違いを把握するために札幌市の会館データ²⁾をもとに、札幌市内の町内会館へアンケート調査を行った(図1)。まず調査①として複数館と単一館の町内会活動の実態、町内会館の基本属性・空間構成、会館運営における維持管理費など町内会館の実態について調査、比較する(3章)。調査②では町内会(利用者)と町内会館(運営者)の会館に対する意識の違い、町内会同士の間での共同活動や交流について把握し、複数町内会で利用するようになった経緯、共同利用の実態、管理などの利用状況を調査し、比較を行う。また、複数利用時期が建設時、建設後の町内会に分類し、利用による違いの比較を行う(4章)。

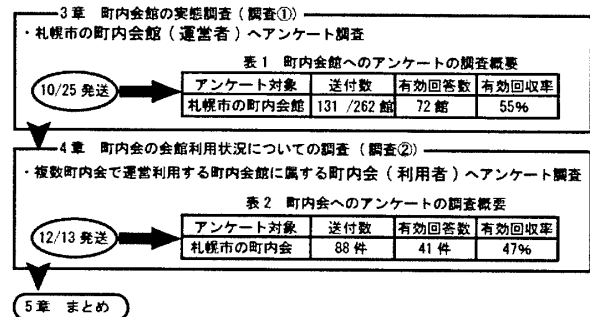


図1 研究のフロー

3. 複数と単一の町内会による町内会館の現状

3.1 町内会館の基本属性

町内会館の建設時期としては昭和37年の札幌市の市民集会施設補助金制度³⁾の発足を境に上昇し、昭和50年代でピークを迎え、現在、建設されている会館はほとんどない。建物の延べ床面積は平均261㎡、敷地面積が平均620㎡と広い敷地を持ち合わせているが、延べ床面積、敷地面積ともに減少傾向である(図2)。また、会館の約7割が2階建てで構造は木造が一般的である。

調査①のアンケート結果から複数・単一館で比較したときの空間構成として複数館の方が敷地面積約150㎡、延べ床面積約100㎡と大きく、一番大きい部屋の広さにおいても平均で約20畳ほど大きいという現状があった(図3)。駐車場台数では平均で8台複数館が多かったが最大数で複数館が70台、単一館が30台と大きな差が出た。複数館の特徴は管理人室を有する場合が高く67%の会館が管理人室を所有しており単一館では41%と約30%の差が見られた。これより複数館では管理人の存在が重要視されているようだ(図4)。

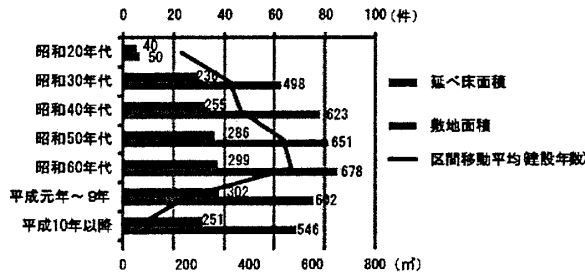


図2 町内会館の年代別建設数(N=262)

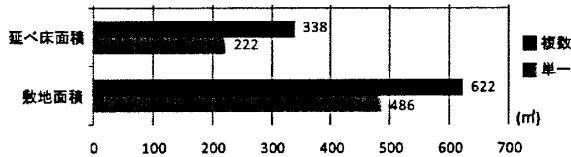


図3 敷地・延べ床面積(複数：N=45 単一：N=22)

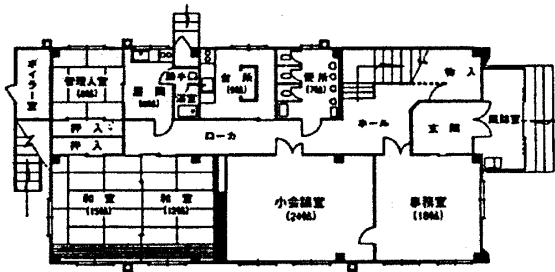


図4 管理人室のある図面(新琴似北会館 S=1:400)

3. 2 町内会館の利用の実態

会館の主な利用年齢層は複数館、単一館互いに50代以上がほとんどであり、複数館では20代～40代の利用も20%程度ある(図5)。活動内容としては「町内会議」「老人クラブ」「カラオケ」「各種教室」の項目が70%程度と多かった。特に複数館では、「婦人会」「お茶会」「各種教室」が単一館よりも多く、高齢者以外の利用が見られた。一方で単一館の活動は「祭り」「カラオケ」の項目が多く、地域の人が集まりやすい活動であると考えられる。利用料金の有無では、単一館が主に利用率のあまりない「法事」「葬式」「各種教室」でしか徴収していないのに対して、複数館では、単一館で挙げた3つの他に「老人クラブ」や「カラオケ」といった利用率の高い項目でも利用料金を徴収している。年間の利用料金でも単一館が平均50万円、複数館が117万円と単一館よりも複数館の方が2倍近く多い。

町内会館の利用状況でお困りの点は、複数館、単一館互いに「駐車場が狭い」が40%程度と多くなっており、単一館に限っては「雪の処理」が57%と多い結果となった。

それに対し、複数館では「維持・管理費」と「なし」が約30%程度でありその他の項目もそれほど多くはなかった。

鍵の管理や清掃者は誰が行っているかを尋ねると単一館では鍵の管理が「町内会長」や「役員」、清掃者では「使った人がその都度」というのが多かったのに対して複数館では鍵の管理・清掃者を町内会長が役割を果たしている場合もあるがどちらも「管理人」が多く(図6、図7)、清掃頻度も「ほぼ毎日」が60%と単一館よりも会館を綺麗に使おうとする意識が高いようだ(図8)。このことから複数館では管理人による管理が行われているのに対し管理人の少ない単一館では町内会長や利用者がその役割を担っている現状がある。

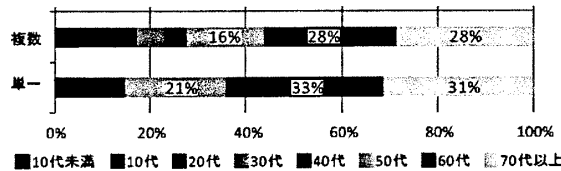


図5 町内会館の利用者の年代(複数：N=45 単一：N=21)

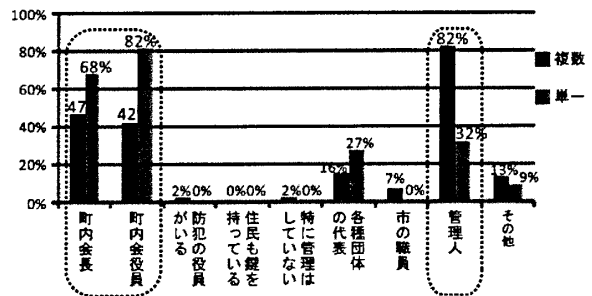


図6 鍵の管理者(複数：N=45 単一：N=22)

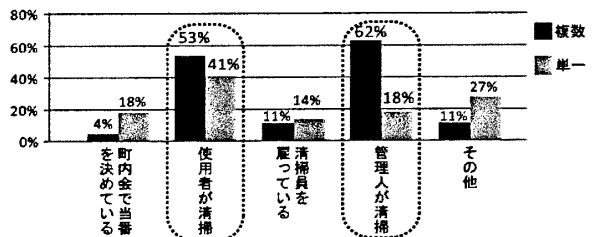


図7 清掃者(複数：N=45 単一：N=22)

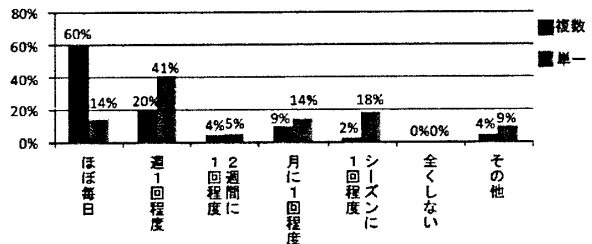


図8 清掃頻度(複数：N=45 単一：N=22)

4. 複数町内会が会館を利用する現状

4. 1 会館の共同利用による利点

町内会館を利用する複数の町内会へのアンケート（調査②）で他の町内会と共同で行う活動については「老人クラブ」63%「祭り」62%の項目が多く、「会議」なども共同で行っているようだ。また、共同ではなく各自で行うものについては「環境」や「地域福祉」などが挙げられた。

利用年齢層は複数館が50代以上の割合が多く若い年齢層の参加も見られたが、町内会としてはほぼ50代以上の年齢層の利用しか見られなかった。これは若い世代の利用の中心は教室等によるもので町内会が活動しているものではなく、会館を他の団体が場所を借りて活動しているものであると考えられる。利用する際の利用料に対して64%の町内会が有料で利用していると回答した。複数の町内会で会館を運営することにより、活動の人数やそれに見合った維持管理、管理人への負担金などを考えると町内会すべてを無料にすることは難しいようだ。町内会による会館の維持管理費では全体の47%の町内会が会費を支払っており、利用料金で賄っているのかもしれないが、管理人の負担等を考えるともう少し多くの町会がその費用を負担することが望ましいと考えられる。会館の利用しやすい点というのは、主に「部屋が広い・多い」91%「距離が近い」69%「利用料金が安い」71%が大体を占めている。特に複数町内会の会館において「部屋が広い・多い」というのは利用率から考えても必要な要素であると考えられる（図9）。

また、複数の町内会になってから増加した活動は、「会議など」が86%で「子供会・青年会・老人会など」が66%と増加した活動が見られた（図10）。管理として、会館運営者は維持・管理で「厳しい」が47%「やや厳しい」が37%（図11）と考えているが町内会（利用者）は「負担でない」39%「管理していない」28%で6割近くを占めており（図12）、管理者は負担と感じているが、使用者は管理してくれる人がいるので利用しやすい環境にはあると感じているようだ。だが管理者側の負担も考えていくのが必要不可欠であると考えられる。

複数の町内会利用での利点で一番多かったのは、「他の町内会との交流が深まった」が73%、「自身の町内会の交流が深まった」が57%と幅広い交流があり、単独では行わなかった活動も複数で行うことにより増加したと考えられる（図13）。

町内会同士での交流関係について聞いたところ「月数回程度」が41%で最も多く、「年数回程度」が38%となっていた。このことから他の町内会と共同で行っている項目は色々あるが頻度としてはそこまでは多くないように感じた。複数の町内会による活動で交流頻度が高い項目は「町内会議」や「老人クラブ」「カラオケ」などの項目で週数回の共同活動が行われている。

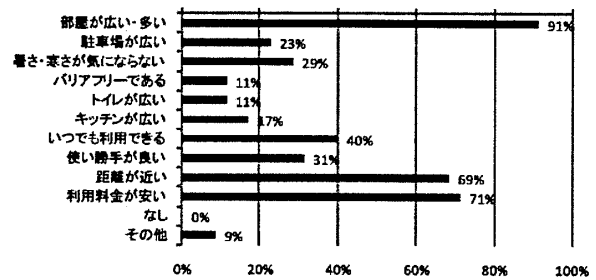


図9 使用状況で利用しやすい点（複数 N=35）

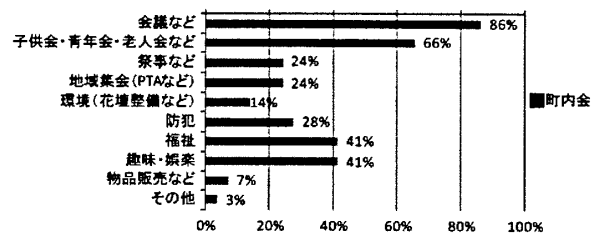


図10 複数になってからの活動増加（N=29）

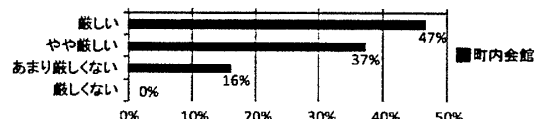


図11 管理者による維持・管理の考え（N=43）

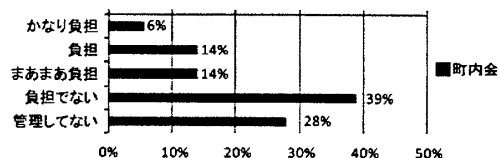


図12 利用者による維持・管理の考え（N=36）

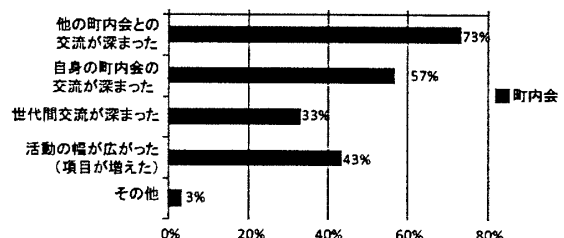


図13 複数利用での利点（N=30）

4. 2 建設時からと建設後からの共同利用

複数の町内会における共同活動については40%の町内会が「町内会館建設以前から」共同で活動しているという回答をした。「町内会館建設時から」が20%なので建設時までに共同活動となったのは60%である。そのうち建設の計画に関わった町内会は38%とあまり会館建設に関わった町内会は多くないことわかった。次に共同活動の時期について「建設時から」と「建設後から」の町内会に分類したところ、前者は利用料で「有料」の割合が78%に対し、後者は50%と低いことから利用料が安いと感じている点、管理の負担をあまり感じていない点などから後者が複数町内会に加わった理由であると考えられる。

利用状況の違いを見ていくと会館建設時から会館を使用していた町内会は主に「1~2割の住民が参加している」が64%と参加しているが、建設後から会館を利用し始めた町内会は「委任状がほとんどで、ほぼ役員だけが参加」が44%と最も高くなっており、参加は少ないようだ。

使用状況では、利用しやすい点では「利用料金が安い」の項目で建設時から使用していた町内会が61%、建設後から使用している町内会が100%となっており、考え方に違いが見られた(図15)。お困りの点としては、「部屋が狭い・少ない」で建設時から使用していた町内会が40%、建設後から使用している町内会が25%となっていた。これは町内会が増えたことにより建設時から使用していた町内会が利用人数の増加等で狭く感じたからではないかと考えられる。管理の負担では、町内会全体の集計同様「負担でない」「管理していない」が大半の回答を占めていたが、建設後から使用している町内会は「負担でない」が67%で建設時から使用している町内会が32%となっており、意識として後から参加した町内会の方が負担性を感じていないという結果となった(図14)。

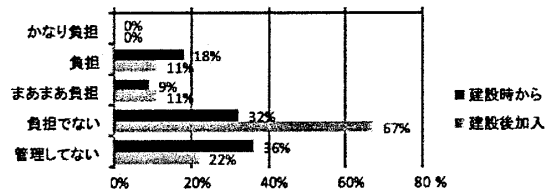


図14 維持・管理の考え (建設時から: N=23 建設後加入 N=9)

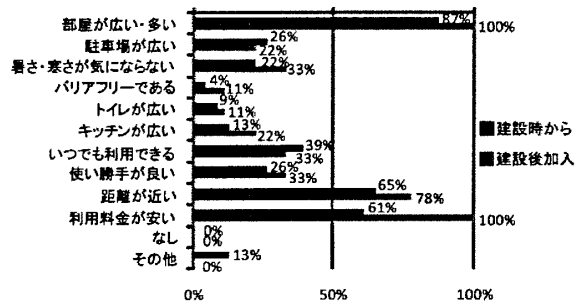


図15 利用しやすい点 (建設時から: N=23 建設後加入 N=9)

5. まとめ

複数館と単一館の違いは、主に利用頻度や人数、部屋の広さに違いが見られた。また、複数館では利用年齢層の違いとして50代以上の利用者が多いが、単一館では20代~40代の利用が見られないのに対し、複数館では10代未満~40代の年齢層にも利用が見られバランス良く利用されていることから活動自体が「青年会」「各種教室」の項目で若い人達にも利用される傾向にあった。更に、管理人室の所持について単一館は、管理人室を持っていない会館が多かったが、複数館では管理人室を持っている会館が約70%あった。管理では単一館で「町内会長」等が役割を担っているが、複数では「管理人」がその役割の多くを担っている。複数館、単一館の特徴を挙げていくと、複数館は活動数が多く、1館当たりの利用量を見ても利用頻度が高いことがわかる。年齢層では高齢者が中心に利用しているが、幅広い世代にも利用されている。また、複数の町内会同士で交流がなされている特徴がある。単一館においては、活動において利用料金が安いことや、使用料金をあまり取らないことから町内会にとって利用しやすい会館であることが考えられる。このように会館の運営・利用形態の違いが見られるが、総評としては複数館は地域交流の頻度や世代、地域の範囲の広さに関して単一館よりも広く利用されていると考えられる。

注記・参考文献

- 1) 加賀谷仙一：室蘭市における町内会館の役割とその現状、日本建築学会学術講演梗概集(E-1)、P373、2010年
- 2) 市民集会施設一覧表、札幌市、2010年
- 3) 市民集会施設建築費補助金交付要綱(改)、札幌市、2003、4月

*室蘭工業大学大学院工学研究科 博士課程前期

* Graduate Student, Department of Civil Engineering and Architecture, Muroran Institute of Technology, Graduate School of Eng

**室蘭工業大学くらし環境系領域 講師

** Lecturer, College of Environmental Technology, Muroran Institute of Technology

***株式会社クリマテック

***CLIMATEQ